

未来を拓く力を育てる英語科の授業

－ 思考力・判断力・表現力等を育てる言語活動の工夫 －

植村 正洋、宮本 和彦

1 英語科で育成する資質・能力

新学習指導要領では外国語科の目標を次のように設定している。

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

外国語科の目標を基に、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」及び「学びに向かう力、人間性」の三つの柱から、育成を目指す資質・能力を次のように設定している。

- ①外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身につけるようにする。
- ②コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。
- ③外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

英語科でも、英語教育の特質を踏まえつつ、外国語科の目標を達成するため、三つの柱に応じて設定された上記の資質・能力を育成しなくてはならないと、新学習指導要領で述べられている。

英語科では、これまで「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の4領域が、今回の改訂で「話すこと」を「話すこと[やり取り]」と「話すこと[発表]」の2つに分け5領域となった。このことは、外国語科の目標にある「表現したり伝え合ったりするコミュニケーション」に対応している。また、レポートや発表等一方向で話して伝えるだけでなく、双方向で即興的な話す力を育成しなくてはならないことを示唆している。

外国語科における見方・考え方は、新学習指導要領において、次のように整理されている。

外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること

様々な人と英語でコミュニケーションを図る際、相手の文化を理解したり、物事を社会や世界などの広い視点から見たりして、コミュニケーションする相手へ配慮することが大切であり、コミュニケーションの目的や場面、状況等に応じ考えなどを整理し、既習のものも含めた概念（知識）を元に思考し、適切な言語材料を判断し、考えを形成し、再構築することが重要であると、新学習指導要領解説において述べられている。

実社会に目を転じると、グローバル化がさらに進み、これまで以上に英語を含む外国語でコミュニケーションを図る力が求められてきている。しかし、これまで指摘されてきた通り、英語の文法や語法についての知識を豊富に有しているものの、それらを実際のコミュニケーションに活用できていない日本人が多く見られる。そのため、CEFR(Common European Framework of Reference for language)などを参考にしコンピテンシーベースの目標を設定し、英語を知っているだけでなく、英語で何ができるかを明確にした上で指導がより一層求められている。

以上から、語彙や文法などの個別の習得だけでなく、英語で何ができるかを明らかにし、目的や場面、状況等が設定されたできるだけ実際に近いコミュニケーションの場で、英語的な見方・考え方を通して、既習及び学習中の言語材料を駆使し自分の意見を構築し、即興性も含めた英語でのコミュニケーション力の育成が求められている。

2 英語科におけるカリキュラムマネジメント

未来思考科で汎用的な「思考力」の育成を行うことで、英語学習を通して育むことができる教科等横断的で汎用的な資質・能力について改めて気づいた。また、未来思考科では、学習課題のレベルを設定している。英語科でも学習課題を設定する際、未来思考科の最終レベルである課題レベル5「教科・生活総合型」を意識するようになり、教科等横断的な指導を行うようになった。

(1) 英語科で育める汎用的な資質・能力

英語学習を通して身につけることができる汎用的な資質・能力は、「相手意識を持って、言葉で説明する力」や「コミュニケーション能力」などがあると改めて気づいた。

John Hindsは、日本語と英語を比較して、英語は「読者中心」の言語であり、対して日本語は「書き手中心」であると提唱した。例えば、ある文章が分からぬ場合、英語では分からぬような文を書いた書き手の問題となる。日本語では、分からぬ読み手の知識が不足していると見なされることが多い。また、文脈の観点から見ると、Edward T. Hallによると、英語は文脈にあまり依存せず、日本語は文脈にかなり依存する傾向にあると唱えている。言い換えると、日本語は「言わなくても（文脈で）分かることは」は表現しない。一方、英語は前後関係の文脈にあまり依存せず、基本的に言語で表現をする。日本語とは対照的な「読者中心」で文脈への依存が弱い英語で表現することは、読み手や聞き手が納得できるように分かりやすく言葉を尽くす訓練になり、「相手意識を持って、言葉で説明する力」が育成されると考える。

最後に、英語は「コミュニケーション能力」を主に育む教科である。Canale と Swain は、コミュニケーション能力を4つの要素、「文法的能力」、「談話的能力」、「社会言語的能力」、「方略的能力」でとらえている。「文法的能力」は、言語の音声や文法・語法などの言語知識を持ち、活用できる能力をさしている。「談話的能力」は、自らの考えや意見を一貫性と結束性を持って伝えることができる能力をさしている。「社会言語的能力」は、目的や相手、場面や状況などに応じて言葉を使い分ける能力のことである。最後の「方略的能力」とは、言いたいことが言えなかったり、伝わらなかった場合に対応できる力のことである。これらの4つの要素を念頭に、英語科では「コミュニケーション能力」を育んでいる。この「コミュニケーション能力」の文法的能力以外の3つの要素は、日本語でコミュニケーションをする際にも大切な力であり、英語で育んだ力を他の教科や場面にも転移できると考える。

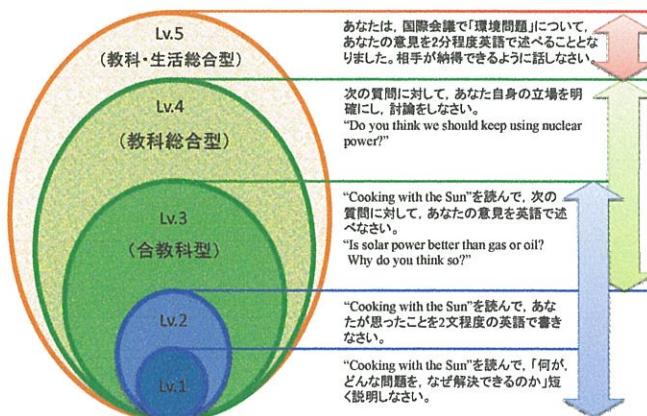
未来思考科で、汎用的な資質・能力の一つである「思考力」を育むことで、英語を通して身につけることができるこれら汎用的な資質・能力に、改めて目を向けることができ、英語の指導内容や配列を再考することができた。

(2) 課題レベル

英語の課題設定時に、学習課題のレベルを考えることで、実生活での課題を想起し、教科等横断的な指導を心がけるようになった。

一つの例を挙げる。New Horizon Book 2 の Let's Read 3 "Cooking with the Sun"で、太陽光を利用した調理器具「ソーラークッカー」の紹介を通して、世界的な環境問題とその解決策について考える説明文を読む。この題材に触れておくことで、社会の公民分野において、「よりよい社会を築いていくために解決すべき課題として、地球環境、資源・エネルギー問題などについて考えさせる」際に、理科の「エネルギー

ーとエネルギー資源」を学ぶ際、また、技術科の「エネルギー変換」の学習において、背景知識の一部として生かすことができると考える。未来思考科でも、「未来のエネルギー資源」という単元において、「日本のエネルギー資源の方向性について、自分なりの考えをまとめ発表する際に活用できる。」という課題に



取り組む際にも、この題材で考えたこと等を役立てることが可能である。

これらのことから、課題 Lv.5を、「あなたは、国際会議で『環境問題』について、あなたの意見を 2 分程度英語で述べることとなりました。相手が納得できるように話しなさい。」とした。この Lv.5を念頭に置くことで、英語授業で扱う課題 Lv.1と2の設定も見直すことができた。従来、内容理解で終わることが多かった読み物教材の Let's Read に、読んだ後意見を求める活動を取り入れるようになった。Lv.3まで英語の授業で扱うことも想定し、準備を行った。また、課題 Lv.が上がるごとに、これまでの経験や他教科での学びを参考にして取り組めるよう、教科のつながりを意識している。

3 未来思考科に取り組んだからこそ見えてきた英語科の授業改善

(1) 研究構想図

未来思考科に取り組むことで、英語で育成でき、他教科へも転移可能な汎用的な能力を育成する必要を感じた。また、教科等横断的な視点を持ち、PDCAサイクルに乗っ取ったカリキュラムマネジメントの必要性が分かった。

そこで、育成すべき資質や能力を明確にし、教科等横断的な視点を持った指導を行うように、西岡（2008）が提唱する「逆向き設計」論を元に、英語科の包括的な問い、その下部に位置する単元の本質的な問い、そしてそれに迫らざるを得ないようなパフォーマンス課題を設定している。また、PDCAサイクルが円滑に進むよう

に、課題を設定する際に評価及び評価方法を工夫して、指導と評価の一体化に努めた。メタ認知力を高めるためにも、3つの視点からの振り返りも行なっている。さらに、パフォーマンス課題を解決するために、パラグラフ・ライティングや英語版<10の考え方>で思考を整理・可視化して自分の考えや意見を論理的に表現できるように指導を行なっている。

(2) 実践例 1

New Horizon Book 2 を元に、授業改善の取り組みを説明していく。

① パフォーマンス課題

学習指導要領の外国語の目標を念頭に、本校英語科では「どうすれば、身近なことや社会的なことを、場面や相手に応じ、外国語科の見方・考え方を通して、英語で受信及び発信できるのだろうか。」という本質的な問いを立てた。この包括的な問いの答えを求め、各単元毎に本質的な問い、及びその答えになる永続的理解を考え、パフォーマンス課題を設定した【資料 1】。

本校英語科の本質的な問い	どうすれば、身近なことや社会的なことを、場面や相手に応じた英語的な思考をしながら、英語で受信及び発信できるのだろうか。			
	Unit 0	Unit 1	Unit 2	Unit 3
問 い	どのように話せば、相手は興味を持って話を聞いてくれるのだろうか。	どんな順番で、何を伝えれば、相手は話を理解し、信じてくれるのだろう。	どのように書けば、読みたいと思えるような文になるのだろうか。	どんなことに気をつければ、対話を円滑にすすめることができるのだろうか。
課 題	あなたは、新しい仲間と友達になるため、楽しかった旅行の思い出を、班の前で、英語で伝えなくてはなりません。より伝わるように、リズムやイントネーションを駆使しなさい。また、質問に答えなさい。	あなたは、宇宙人を目撃しました。友達に何とか信じてもらいたいです。目撃した場面の絵を友達が描けるぐらい、感情を込め、迫力たっぷりに英語で説明しなさい。	旅行代理店の営業として、中学生が「行ってみたい」と思うような、観光地を紹介するチラシを作成します。キャッチコピーを付け、6 文程度の正確な英文で魅力を伝えなさい。	ロバート先生から、みんなの「将来の夢」について聞きましたと相談がありました。「将来の夢」を伝え、それについてロバート先生からの質問に答え、会話テクニックを駆使し、1 分半スムーズに会話をしましょう。

【資料 1】2年カリキュラム例

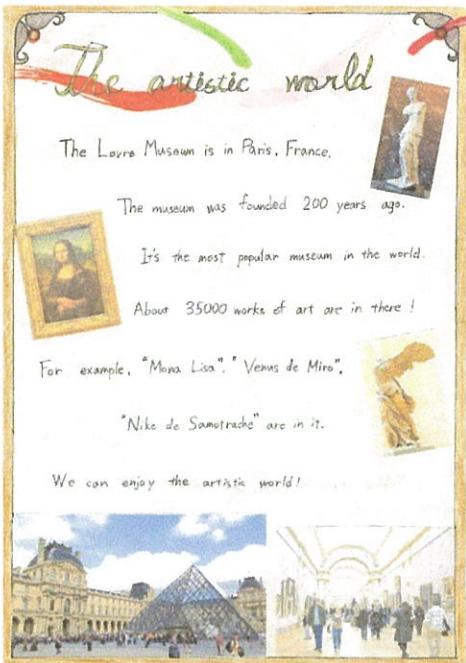
パフォーマンス課題は、Unit本文の題材や言語材料を参考に、教科書から派生するようなパフォーマンス課題を作成するようにした。例えば、Unit 2では、光太が姉を訪ねてイギリスへ行き、その観光地を紹介する題材である。その題材を生かし、将来「熊本県の観光地を、外国人にPRできる」ように、パフォーマンス課題を、「旅行代理店の営業として、中学生が「行ってみたい！」と思うような、観光地を紹介するチラシを作成します。キャッチコピーを付け、6文程度の正確な英文で魅力を伝えなさい。」とした。また、Unit 2ではチラシを2回作成させ、それぞれ「外国語表現の能力」「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」を評価した。最初のチラシは、英語と社会の合科と考えた。実際、生徒の多くは、1年次に社会で作成した、外国を紹介する新聞を持参し、その中から必要な情報を精査して、チラシを作成していた。第2回は、右のような作品に仕上がった【資料2】。課題レベルを上げ、英語と社会に美術の要素を取り入れた。多くの生徒が、最初のチラシで正確性、表現の多様性にこだわったチラシに、さらに文章等を加えて提出していた。

② 評価の工夫

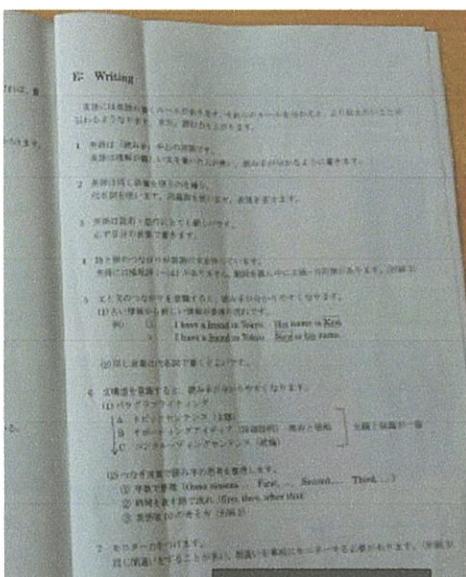
学習指導要領を参考にし、3年間を通して、身につけて欲しい英語の見方・考え方等を一冊にまとめ、生徒へ配付した【資料3】。学習課題を設定する際、この本のどの部分に焦点を当てるかを考え、指導の系統性をとっている。例えば、Unit 2であれば、「英語は同じ言葉を使うのを嫌う。」という部分に焦点を当てている。

指導と評価の一体化を目指し、各単元毎に Can-Do List も作成した。この一枚で、本単元では何を学び、どのような評価が行われるのか分かるようにした。Unit 2では、右のような Can-Do List を配付した【資料4】。各評価の配点も明示しているのは、評価やテストの波及効果である「ウォッシュバック効果」を狙っている。大学入試でスピーキング能力を図るから、高校や中学でその指導を行うようになるのが、この「ウォッシュバック効果」の例である。このリストを渡すことで、評価基準を伝えることにもなっており、自らの課題や強み、学習理解度なども目に見えて分かるので、メタ認知の育成にもなると考えている。実際、生徒は単元の終わりに近づくと、リストで合格していない部分を見て、休み時間等を利用して、評価を受けにくくすることが増えている。また、各観点の点数を計算し、自分の評価を確認する姿も多く見られた。そして、各単元の終わりに、3つの視点からの振り返りを行わせている。評価の一覧があるので、この単元で学んだことが振り返りやすくなり、以前と比べて「つなげる」と「生かす」の視点で内容がより深くなっていると感じている。

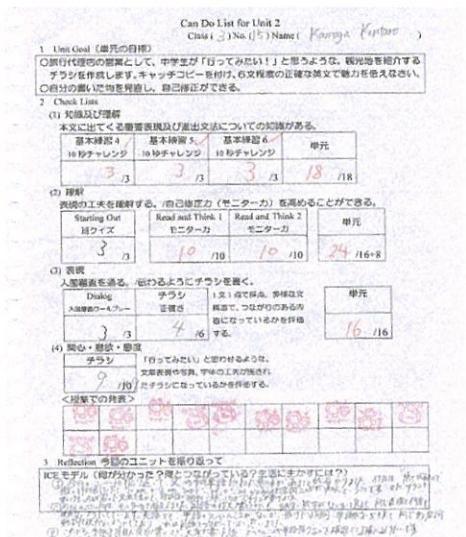
最後に、パフォーマンス課題を評価するのにルーブリックを活用している。ルーブリックでの評価は、主観的になりがちなので、評価の観点を明確にし、実例を出したり、生徒と評価について話し合ったりして、評価の客観性を保てるようにしている。



【資料2】チラシ



【資料3】英語の見方・考え方



【資料4】Can-Do List

(3) 実践例 2

次に New Horizon Book 3をもとに、授業改善の取り組んでいる。各ユニットごとにパフォーマンス課題を設定し、「本質的な問い合わせ」に迫るように働きかけ、効果的な英語技能の習得、コミュニケーション力の向上を図った。下はパラグラフ・ライティングの実践例である。Unit 1 の Presentation

1 (日本文化紹介)では、「本質的な問い合わせ」を「どんな順番で、何を伝えれば、相手は話を理解し、日本の良さを分かってくれるだろうか。」とし、パフォーマンス課題を「日本によさについてインターネットで紹介します。日本によい点を具体的に取り上げ、興味・関心が湧くような話題を選び、10文以上で書きましょう。」とした。

① パラグラフ・ライティング

英語科では、大井ら (2008) を参考にし、パラグラフ・ライティングの手法を取り入れた。パラグラフ・ライティングとは、「トッピックセンテンス」「支持文」「結論文」の3つの要素で文章を構成し、相手に分かりやすく説明する手法である。

まず最初に話題になる項目を挙げさせ、何を伝えたいのかを選ばせ、生徒に書かせた。その後伝えたいことをパラグラフごとに分けて文章化させた。書いていく中で、伝いたいこと（主張）が薄れてしまう文章が多く見られ、情報の列挙になってしまっていた【資料5】。そこで、本校「英語版〈10の考え方〉」を指導に取り入れて指導にあたることにした。未来思考科における〈10の考え方〉には、思考の可視化をして、論理的思考力を育む手助けとする狙いがある。そこで英語科においてもこの〈10の考え方〉の英語版を作成し、活用してきた【資料7】。具体的な接続詞や副詞（句）を取り上げることで英語でも論理的に考え、作成の手助けとした。【資料5】では情報の羅列だったが、「英語版〈10の考え方〉」を用いて、パラグラフ・ライティングでの主張を論理的に整理することで、まとまりのある文章へと変化した【資料6】。文章を作成する中で、どの接続詞や副詞を使えば、文章がスムーズに展開するかなどを生徒自身がより深く考えるきっかけになった。また生徒が論理的に文と文のつながりを整理しながら文章の書き直しを行うことで、英語の知識・理解も深まり、表現の幅が広がった。以前の文章と比較する姿も見られ、思考の足跡を振り返ることができた。

② 評価の工夫

評価の工夫の一つとして、単元ごとのCan-Doリストをより具現化し、教師と生徒が評価規準を確認できるループリック表を活用している。

Unit 1の評価では、「伝えたいこと」「正確さ」「論理的まとまり」を評価した。特に「論理的まとまり」の項目では、「論理的に考え、つながりとまとまりのある文章を書くこと」を評価の視点とし、A評価となる生徒が増えた。各ユニットでのパフォーマンス課題に対してループリック表を生徒と共有し、見通しの持てる英語学習になるように工夫している。

Ten Ways of Thinking in English	
比較 in contrast	... Salad is a healthy food. In contrast, candy is not healthy.
反対 from this point of view	... Salad is a healthy food. From this point of view, you should eat salad every day.
関連 in relation to People like to be healthy. In relation to that, doctors say to eat salad every day.
類推 from these results	... Doctors say that salad is healthy. From these results, people have started to eat more salad.
一般 therefore	... Doctors say that salad is healthy. Therefore, you should eat salad every day.
具体 for example	... There are many salads, for example Caesar, etc. Greek, and many others.
多面 from another point of view	... Some people think salad is the best food. From another point of view, some people think that it is the worst food.
統合 in conclusion	... In conclusion, salad is a healthy food.
批判 ... says that ... but The writer says that salad tastes bad but, he never had a Japanese salad.
相反 however	... Vegetables are healthy. However, many salad dressings are unhealthy.

【資料5】First Draft

Ten Ways of Thinking in English	
I think Japan has a lot of good points today. I'll introduce some of them.	
First, there are many traditional temples and shrines in Japan. For example, Todai-ji temple, Hiyoshi-temple and more. They are very mysterious and give us power. Therefore, we visited there and pray our wishes.	
Second, most Japanese people are very kind. For example, if you lose the way in Japan, you should ask someone. The person will surely teach you the way that you want to go. I think that kindness is very important.	
Third, many children in Japan are learning English at school. So, most Japanese can speak English. You can ask them questions in English.	
In conclusion, there are many good people in Japan, and you can feel a lot of kindness from Japanese people. In addition, Japan has many traditional buildings. I recommend visiting them. Learn and enjoy Japanese life! Thank you!	

Ten Ways of Thinking in English	
比較 in contrast	... Salad is a healthy food. In contrast, candy is not healthy.
反対 from this point of view	... Salad is a healthy food. From this point of view, you should eat salad every day.
関連 in relation to People like to be healthy. In relation to that, doctors say to eat salad every day.
類推 from these results	... Doctors say that salad is healthy. From these results, people have started to eat more salad.
一般 therefore	... Doctors say that salad is healthy. Therefore, you should eat salad every day.
具体 for example	... There are many salads, for example Caesar, etc. Greek, and many others.
多面 from another point of view	... Some people think salad is the best food. From another point of view, some people think that it is the worst food.
統合 in conclusion	... In conclusion, salad is a healthy food.
批判 ... says that ... but The writer says that salad tastes bad but, he never had a Japanese salad.
相反 however	... Vegetables are healthy. However, many salad dressings are unhealthy.

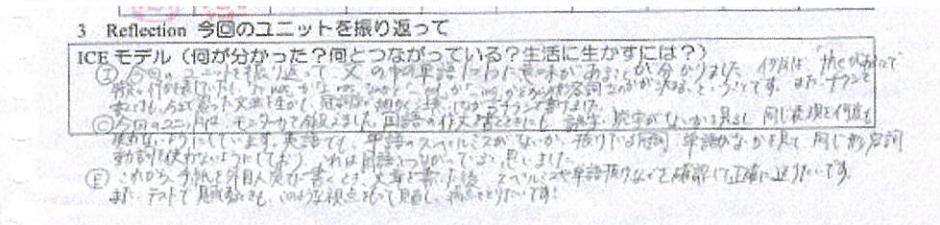
【資料7】英語版〈10の考え方〉

4 成果と課題

(1) 成果

- Can-Do Listなどで評価基準を生徒と教師が共通理解することで、学習内容の見通しができ、生徒が課題に対して積極的に取り組み、教師が具体的に指導できるようになった。
- 3つの視点から、振り返りを行い、生徒のメタ認知力の向上が見られた。

「知る・できる」…「今回のユニットを振り返って、文の中の単語一つ一つに意味があることが分かりました。例えば、「the」があることで特定の何かを表しているということ。またチラシを書く時も今まで習った文法を生かし、冠詞を細かく気をつけてチラシを書きました。」既習文法を意識しながら、知識を習得する姿が見られた。【資料9】



【資料9】3つの視点からの振り返り

「つなぐ」… 「ユニットで学んだことは、プレゼンをするときに国語で学んだ、プロミネンスやアクセント、抑揚を付けるといったスピーチに大切なことと同じで応用されていると感じた。」英語で発表する時に、国語で学んだことが発表に生かされているという感想が見られた。生徒が教科間で学んだことを生かしているという評価ができており、今後の指導へつなげたい。

「いかす」… 「将来仕事などで英語を話す時は、カタカナ語読みになってしまわないよう、内容を意識して、ジャパネットたかたさんのように迫力を持って話したい。」授業での「感情を込めて、迫力たっぷりに英語で説明をする。」というパフォーマンス課題のもと、実際に英語を使って話をしたり、英語を伝えるという練習を通して、英語の特徴や長所を知り、将来の自分につなげていこうとする姿見られた。

(2) 課題

- メタ認知力を高めるためにも、3つの視点を参考にした振り返りも行わせた。状況に応じて表現を工夫する「社会言語的能力」や伝わらなかつた時に他の方法を試みる「方略的能力」を中心に振り返ることがあったが、より具体的なアドバイスを増やす必要があると感じた。また反省をもとに、既習文法の整理を行い、次につなげることが必要だと感じた。
- パフォーマンス課題を達成する為には、流暢さと正確性の両立が難しいと気付いた。
- 「英語版〈10の考え方〉」は、文章を整理し、思考力の可視化出来る一方で、文と文、段落と段落がうまくつながらない接続詞を選ぶ生徒もいた。文章全体の流れを考えさせながら、継続して取り組んでいくことが大切だと感じた。

【参考文献】

- 大井恭子、田畠光義、松井孝志『パラグラフ・ライティング指導入門』大修館書店
京都大学大学院教育学研究科E. FORUM 赤沢真世(2014)『解説「E. FORUM スタンダード英語科(第1次案)」について』
熊本大学教育学部附属中学校(2014)『平成26年度研究発表会資料 思考力・判断力・表現力を育成する授業づくり』
国立教育政策研究所(2011)『評価基準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料』
文部科学省(2017)『中学校学習指導要領 外国語編』『中学校学習指導要領解説 外国語編』
西岡加名恵(2008)『逆向き設計で確かな学力を保証する』明治図書
Canale, M. and M. Swain (1980) "Theoretical Bases of Communicative Approaches to Second Language Teaching and Testing"
Hall, Edward T. (1976) "Beyond Culture" Anchor Press Doubleday, New York
Hinds, J. (1987) "Reader vs. writer responsibility: a new typology." In U. Connor and R. B. Kaplan (eds.)
Writing across languages: Analysis of L2 Text.